

林業のプロフェッショナルに聴く

日本の木の文化を支える「年中行事」

森林に関わる知識から林業の見識を深め、「株式会社高橋林業」を設立した高橋正二さん。森林や山の大切さを今一度見つめ直す「年中行事」について、高橋さんにお話を伺いました。



株式会社高橋林業
代表取締役 高橋正二さん
神奈川県出身。山梨県庁退職後、森林組合の参事を勤め、林業経営の知識を深める。49歳で独立し、「株式会社高橋林業」を設立。

「森林や山は、私たちの暮らしに様々な恩恵をもたらしてくれています。例えば、日用品や建物などの材料としての役割、酸素を生み出す役割、保水機能や水害の防備機能など、その役割は多岐に渡ります。しかし近年では、社会構造や人々の意識の変化などにより、不法伐採やゴミの不法投棄などといった問題も数多く見受けられます。木の文化を後世に継承していくためにも我が国では「年中行事」を通して、森林や山に対する意識やその大切さを改めて見直す必要があるように思います。その「年中行事」として、七つの行

事が挙げられます。まず一つ目は、一月十七日に〈山の神〉を祭ることで安全を祈願する、農村行事のものがああります。二つ目は、四月二十九日の〈みどりの日〉です。昭和二十五年に昭和天皇・皇后両陛下をお迎えして第一回植樹祭が行なわれたことをきっかけに、この日は〈みどりの日〉として祝日になりました。三つ目は、四月から六月にかけて行なわれる〈全国植樹祭〉です。六十年以上も続くもので、今日では国民体育大会・全国豊かな海づくり大会と並び、三大行幸啓とも称されています。四つ目は、八月十一日の〈山の日〉です。自然と親しみ、森林の様々な恩恵に感謝する日として、二〇一六年に施行された祝日です。五つ目は、九月から十一月にかけて行なわれる〈全国育樹祭〉です。ただ植樹するだけ

でなく、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するために設けられました。過去の全国植樹祭で天皇・皇后両陛下がお手植えされた樹木に、皇族がお手入れ、枝払いなどを実施します。六つ目は、十月八日の〈木の日〉で、漢字の十と八を組み合わせると「木」になることから定められました。木の良さを改めて見直してもらおう日です。最後は、十月から十一月にかけて行なわれる〈間伐推進強化月間〉です。継続的な森林づくりには欠かせない、間伐の普及啓発活動、間伐材の利用推進活動を実施するための啓発運動期間です。このように日本では、森林や山の重要性について見直すための「年中行事」が数多く存在していますので、自然とのより良い関係を築くためのきっかけになればと願っています」

